



「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	8
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	9

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

年始のご挨拶

2019 年、新年明けましておめでとうございます。

皆様には日頃より JRRN のネットワークの活動にご協力いただきまして大変ありがとうございます。

昨年は JRRN の会員も増加し、アジア地域における各国の活動の情報を共有する ARRN の活動も日本が事務局をお引き受けして、8 月に東京大会を開催し、各国の方に渡良瀬遊水地の現地を視察していただきました。大いに情報交換をして、国際的な結び付きを再確認しました。

今年は、全国の小さな自然再生の担い手が集い、各地の経験や挑戦を仲間と共有し、今後の更なる推進に向けて意見を交換する「第 1 回小さな自然再生サミット 2019 神戸大会～できることから始めよう～」を 2019 年 1 月 26 日（土）～27 日（日）に神戸（デザイン・クリエイティブセンター神戸、KITO）にて開催致します。合わせてフィールドに出てみようということで、阪神電鉄・魚崎駅に集合し住吉川に見学に行くことも計画しています。たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。

昨年を象徴する漢字に「災」が選ばれました。まことに災害の多い年でしたね。とりわけ西日本豪雨（正式名称は平成 30 年 7 月豪雨と決まりました）では、6 月末から 7 月にかけて各地で大雨が降り、死者行方不明者合わせて 230 人を超えるという大きな被害を出してしまいました。

岡山県倉敷市真備町では高梁川の氾濫、広島県では土砂崩れや浸水による被害が相次ぎました。広島県の南部では土石流・土砂崩れが 5,000 箇所以上で発生（16 日）。通常では崩落しにくい山頂部の崩壊も多発し、豪雨の凄まじさを裏付けました。広島県の住宅被害は浸水も含めると 19 日までに 38,000 棟に及びました。

このような大きな洪水が発生して、きっと皆さんが各地で進め

ている小さな自然再生の取り組みも被害に会われたのだらうと推察しています。これまでの取り組みが全滅してしまった地域もあるかもしれません。でも、ここでお願いがあります。災害があったということで、もう駄目だとあきらめて小さな自然再生への取り組みをやめないでいただきたいのです。ちょっと悟ったようなお話ですが、自然と共生することとは、今年のように大自然の営みが、猛威をむき出しにして襲い掛かってくることも受け入れなければなりません。鬼怒川、荒川などの川の名前は、そのような自然の営みの中で命名されたのです。鬼怒川の昔の名前は「衣川、絹川」という名前でした。しかし、ある時大変な大洪水が起こり、静かな川が、怒りをむき出しにした鬼のようだということで、怖い名前の漢字をあてたのです。荒川も洪水のたびに流路を変える予測のつかない暴れ方をする川だということから「荒ぶる川」と呼んだのです。そしてこのような命名には災害に対する、「後世の人々に対する警鐘」の意味があったのです。

私たち日本の歴史はまさに災害の歴史です。でもそこには災害に打ちひしがれて涙を流し続けるよりも、新たな未来へ向かって見事に復活した言い伝えがたくさん伝承されています。今、私たちが将来への取り組みを継続することが、次の世代の人々へのメッセージとなるのです。

そして、お願いします。自然の脅威の前に果敢に挑戦する皆さんの姿を、次の時代を担う子供たちに見せてやってください。時として涙する姿でも構いません。取り組んでいる姿、それこそが次代を担う子供たちの心を強くすると思うのです。

今年も各地で大いに活躍ください。どうぞよろしくお願いいたします。

JRRN 代表理事 土屋信行

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」 参加者募集

JRRN では、全国の小さな自然再生の担い手が集い、全国の取組みを共有し、今後の更なる推進に向けた議論を行う「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」の参加者を募集しております。国土交通省からのご後援をいただけることになり、ポスター（広報チラシ）の最終版も完成しました。

■「小さな自然再生サミット」ポスター：

http://jp.a-rr.net/jp/news/info/files/2018/11/Collaboriver_summit201901d.pdf

皆様のサミットへの参加のご応募をお待ちしております
(1/18 申込〆切)。

(JRRN 事務局・後藤)



小さな自然再生サミット

～できることから始めよう～ 2019 神戸大会

1/26 (土) サミット
@ KIITO (1F ギャラリーA)

【定員】300名 (先着申込順です)

10:00 開場 (展示等の準備、参加者交流 ※自由来場)

13:00 サミット開会

開会挨拶：玉井信行氏 (東京大学名誉教授)

13:10 基調講演：島谷幸宏氏 (九州大学教授)

13:50 事例発表 ※発表事例は裏面参照

16:40 意見交換会

18:00 サミット閉会

18:30 懇親会 開会 (～20:00 @同会場)

【主催】「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

【後援】国土交通省

1/27 (日) 現地視察
@ 住吉川
“住吉川の『水辺の小わざ魚道』”

魚崎駅 (阪神電鉄) 改札前 9:00 集合～11:00 解散

【現地案内】

島本信夫氏 (特定非営利活動法人豊かな森川海を育てる会)

立川 伸氏 (兵庫県 神戸土木事務所)



公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。



土学会CPD認定プログラム (CPD単位5.0)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

写真で振り返る 2018 年の JRRN 活動

H29 年度河川基金優秀成果表彰

<2018.1.28@東京>



(公財) 河川財団より「平成 29 年度 優秀成果表彰」をいただきました。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/871.html>

第 8 回小さな自然再生研修会開催

<2018.2.27@秋田・斉内川>



「道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出」をテーマに開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/537>

第 20 回日本水大賞・国際貢献賞受賞

<2018.6.26@東京>



第 20 回日本水大賞の「国際貢献賞」の栄誉に浴することが出来ました。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/910.html>

第 15 回 ARRN 国際フォーラム開催

<2018.8.21@東京>



ARRN『第 15 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/548>

第 13 回 ARRN 運営会議開催

<2018.8.21@東京>



アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第 13 回運営会議」を開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/926.html>

台湾・台中市水利局視察支援

<2018.8.23@東京>



都市河川再生を主テーマに台湾・台中市政府水利局の来日視察を支援しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/555>

香港特別行政区政府渠務署視察支援

<2018.9.18@東京>



東京の高潮対策や洪水対策をテーマに香港特別行政区政府渠務署と技術交流しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/569>

小さな自然再生が中小河川を救う！VI 開催

<2018.9.22@東京>



自由集会『小さな自然再生が中小河川を救う！VI リターンズ』を開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/577>

IWHR 創立 60 周年シンポ参加

<2018.10.17@中国・北京>



「水分野の国際組織代表による座談会：水の革新的未来を繋ぐ」に参加しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/596>

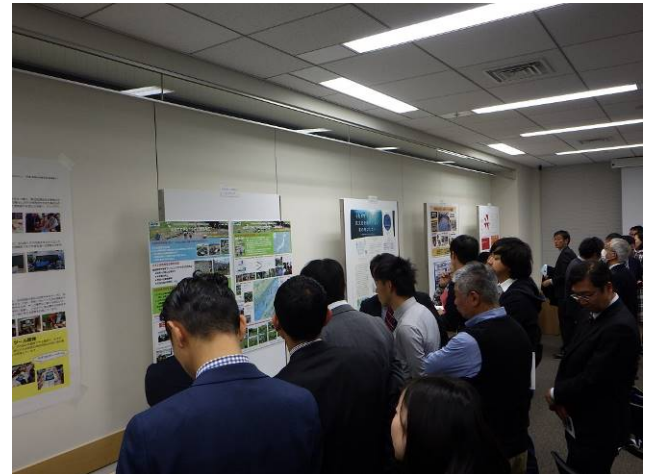
(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (4) JRRN Activity Report

「水循環シンポジウム 2018～全国に広がる水のネットワーク～」参加＆発表報告

2018年12月10日(月)に、水循環政策本部が主催する「水循環シンポジウム 2018～全国に広がる水のネットワーク～」が東京にて開催され、水辺でできる「小さな自然再生」の普及促進活動の一環で、JRRN 事務局も参加・ポスター発表して参りました。

本シンポジウムは、「全国に広がる水のネットワーク」をテーマに、健全な水循環構築に向けて全国で様々な活動に取り組む行政や団体が参加し、各地の取組みを共有し、水のネットワークの更なる活性化を目的に開催されたものです。JRRN では、小さな自然再生の概要及びその普及に向けたこれまでの活動概要を事例と共に紹介させて頂き、ポスター発表での意見交換を通じて現場のニーズや期待を確かめることができました。



ポスターセッションの様子

JRRN Collaborative Nature Restoration
水辺でできる“小さな自然再生”
～川づくりのアクティブ・ラーニング～
日本河川・流域再生ネットワーク JRRN

小さな自然再生とは？ ～みんなで発案・協働する手づくりの自然再生～

「小さな自然再生」の定義
以下の3条件を満たす取組みを「小さな自然再生」と定義しました。

- ① 自己調達できる資金規模であること
- ② 多様な主体による参画と協働が可能であること
- ③ 修復と撤去が容易であること

小さな自然再生の波及効果
環境教育や地域づくりとしての“小さな自然再生”

- 自然への関心の高まり
- 水意識の向上
- 地域への愛着醸成
- 住民交流の活発化 etc.

小さな自然再生を進める上での留意点

① しっかりと手続きを踏む
河川、水路の管理者への許可申請等

② 人とのつながりを大切に
関係者との調整、行政の協力等

③ 安全第一で取組もう
治水・景観への配慮、装備や緊急対応等

【主な留意点】

- 設置するモノが洪水の流れを邪魔しませんか？
- たとえ洪水で流されたとしても大丈夫ですか？
- 護岸や堤防などの施設に影響は出ませんか？
- 河川景観への配慮は十分していますか？
- メンテナンスは誰がやるの？
- 作業で濁水や水質事故を起こしませんか？
- 漁師や地域住民との調整はできていますか？
- 河川管理者の協力は得ていますか？
- 行政が定める事業や能率を追い回していますか？
- 関係者の支持はきちんと得ていますか？
- 現場での安全管理は大丈夫ですか？ etc.

小さな自然再生の全国普及に向けた私たちの挑戦 ～仲間を増やし、担い手を育成する～

①「小さな自然再生」を知り全国の取組みを学ぶためのツールを整備しています

2014年6月 研究会設立 → 2015年3月 事例集発行 → 2016年3月 ホームページ開設 → 2017年3月 リーフレット発行 → 2018年3月 動画公開 → 2019年3月予定 データベース公開

② 仲間が集い議論する場を創ります

③ 知を磨き持論（仮説）を持つ場を創ります

④ 実践し効果を検証する機会を支援します

「小さな自然再生」研究会 <http://www.collabo-river.jp/>

本活動は、公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けています。

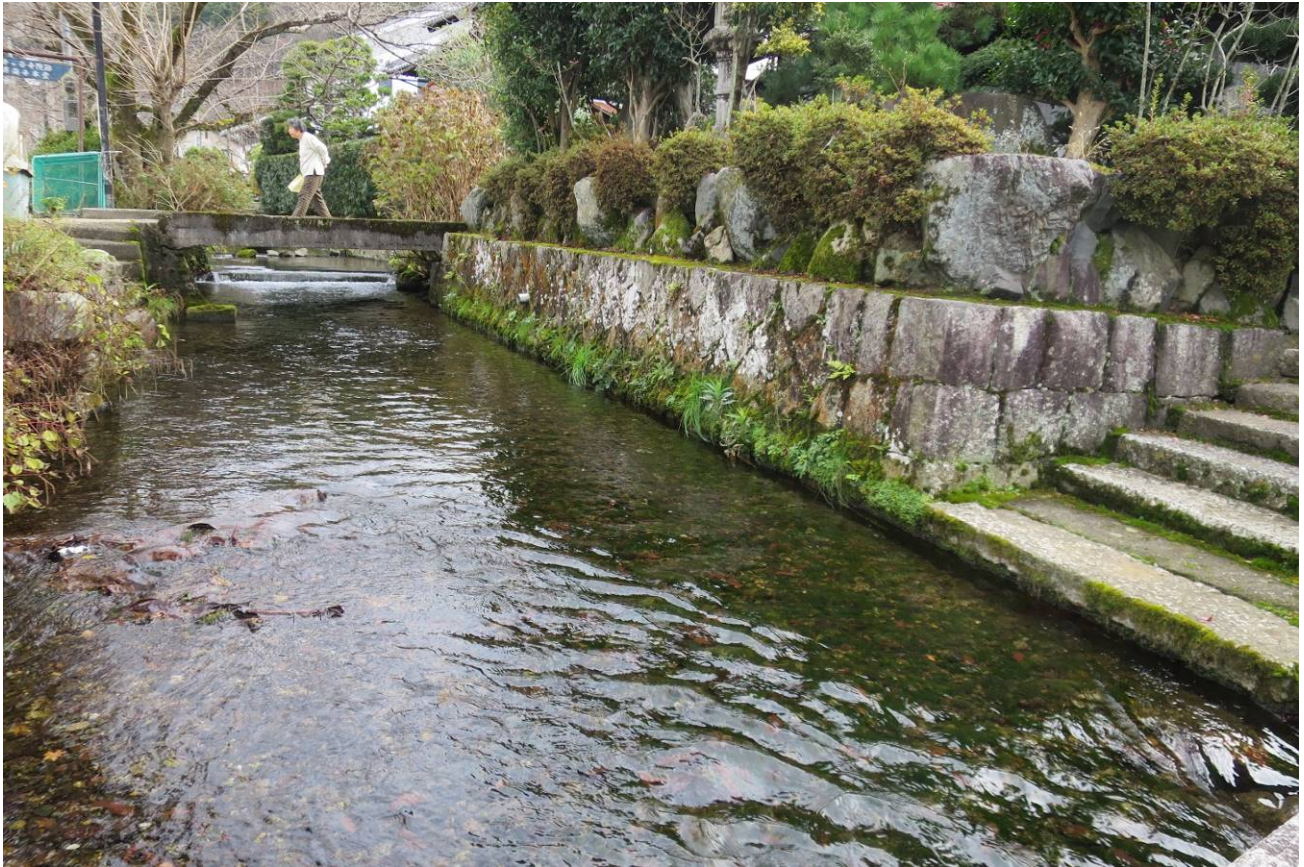
水循環シンポジウムで発表したポスター

(JRRN 事務局・和田彰)

水辺からのメッセージ No.116

岡村幸二 (JRRN 会員)

居醒(いさめ)の清水： 緩やかに流れる地藏川 醒井宿に伝わる伝説の湧水



撮影：2018 年 12 月（滋賀県米原市醒井・地藏川）

◆透き通るような清流は家々に接しながら流れる

中山道醒井宿（現米原市）には、湧水を水源とする地藏川が流れます。清冽な流れは周囲の家並みや木々の緑とも反応して、美しい水辺の風景が成立しています。

◆「湧水の妖精」のバイカモと「絶滅危惧種」のハリヨ

バイカモ（梅花藻）は水温 15 度前後の湧水を好み、浅瀬の水底に群生し、鮮やかな緑色の多年生草本です。バイカモに寄生する水生昆虫は、絶滅危惧種のハリヨの好物であり、産卵場所にもなります。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

河川書の探求(9)

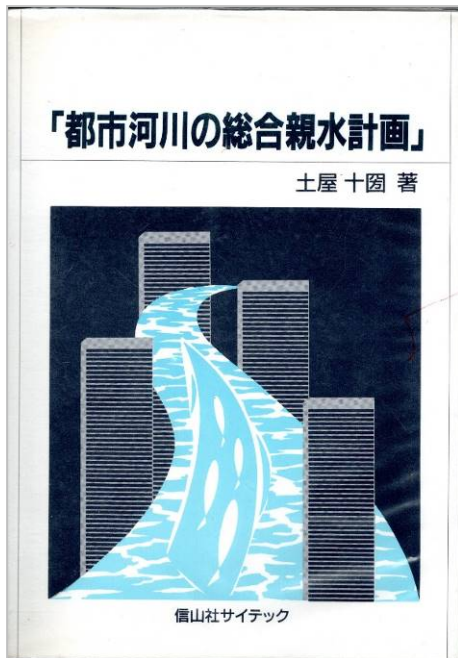
親水空間論・河川再生論

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

1. 親水河川空間論

河川の機能として治水機能、利水機能、親水機能を持っている。土屋十圀著『都市河川の総合親水計画』(信山社サイテック・1999年)では、親水性について、次のように定義する。

「親水性とは水辺環境において文字どおり水に親しむことをいい、水がもつ物理的、化学的な諸作用を通じて、人間の知覚作用によって与えられる意識及びその事像をいい、アメニティーの一部を構成する概念」とした。



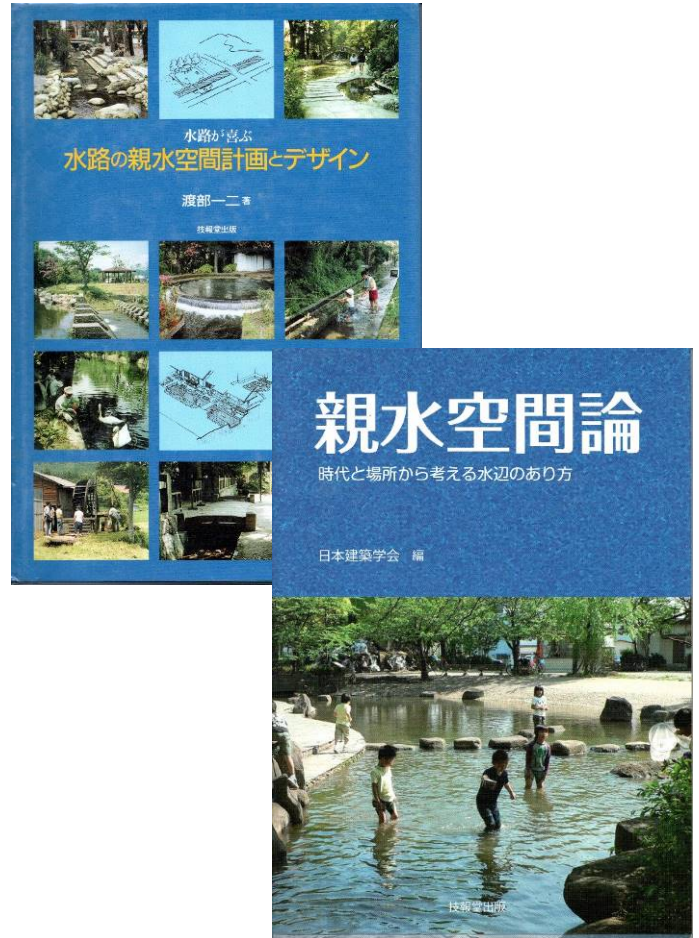
その河川における総合的な親水性を構成する要素を次の4点の議論を展開する。

- ①さわやかで豊かな水の流れ……………(流水形態)
- ②いきものの存在する流れ……………(生態環境維持)
- ③きれいな水の流れ……………(良好な水質保全)
- ④美しい河道のデザイン……………(景観設計)

親水機能として、水と周辺の生物などに接する心理的満足や水遊び、住民の憩い、コミュニケーションの場、景観などを掲げ潤いのある水辺空間を追求する。

1990(平成2)年農林水産省が推進する「水環境整備事業」に鑑み、水路における親水空間論を捉えた渡部一二著『水路が喜ぶ水路の親水空間計画とデザイン』(技報堂出版・1996)がある。実際に、札幌市の創成川、福島県の大内宿の水路、熊谷市の星川、郡上八幡の水路、三島市の源兵

衛川、黒磯市の巻川用水が並ぶ。特に、大内宿の道沿いの、近くの山から流れる爽やかな水路の清かな流れに、旅人の心がときめく。

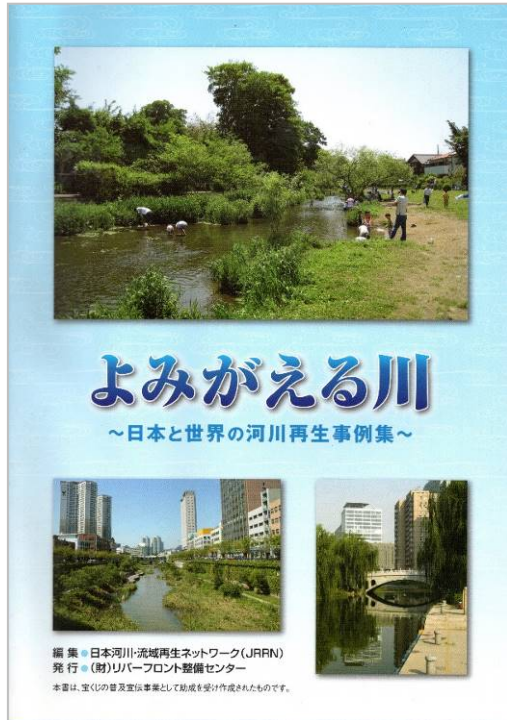


「都市生態学的視点による親水行動論」のサブタイトルのある畔柳昭雄・渡邊秀俊共著『都市の水辺と人間行動』(共立出版・1999)は、都市化によって、身近な自然やオープンスペースが減少したことから、人々は潜在的に自然のふれあいを求める。ここに親水行動が生じる。こういう行動は、周辺から失われた自然環境を補完するものとして、水辺空間、親水空間が優先的に選択される。と分析する。畔柳昭雄・上山 肇著『みず・ひと・まちー親水まちづくり』(技報堂出版・2016)もある。

日本建築学会編『親水空間論ー時代と場所から考える水辺の在り方ー』(技報堂出版・2014)は、海の水辺事例として、広島県の厳島神社、青森の木野部海岸、河川の水辺として京都の鴨川、湖沼の水辺として、茨城県の古河総合公園等を掲げる。

2.河川再生事業論

河川再生事業については、日本河川・流域再生ネットワーク編『よみがえる川－日本と世界の河川再生事例集』(リバーフロント整備センター・2011)は、河川再生について、自然環境や生物を対象とした再生の取り組みと同時に、かわまちづくりで代表される景観・歴史・文化等の河川が有する地域の魅力を活かした街と水辺が融合した再生も含まれる。

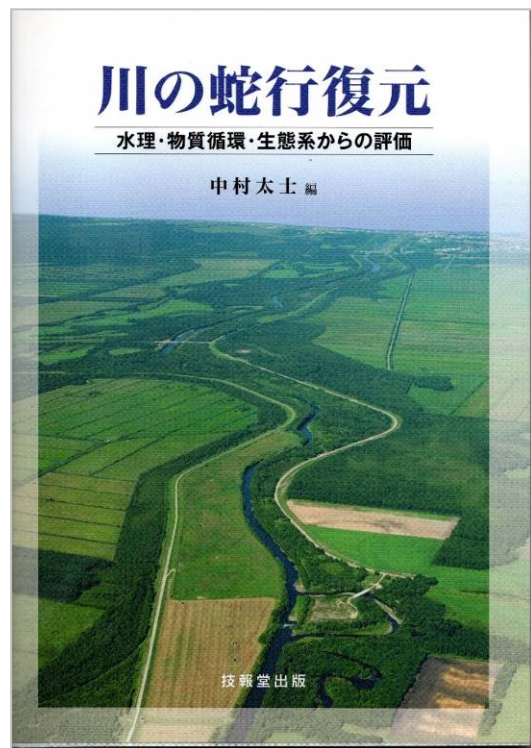
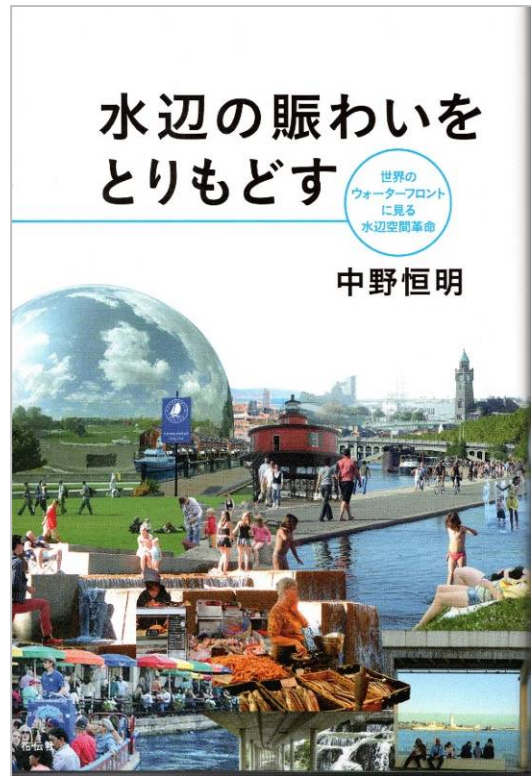


事例として、恵庭市茂漁川、酒田市小牧川、朝霞市黒目川、北京転河、台湾高雄市愛河、イギリス・テムズ川、同・スカーネ川、アメリカ・キシミー川、デンマーク・スキャーン川、オーストラリア・クック川、イタリア・ゼロ川、オランダ・アイセル川等を捉えている。

リバーフロント整備センター編『川からの都市再生－世界の先進事例から－』(技報堂出版・2006)では、ソウルの川・清溪川の再生プロジェクト、中国・上海蘇州川の再生、イギリス・マージ川の河畔風景再生、フランス・セヌ川の高速道路の整備、アメリカ・ボストン地下化した道路空間の公共スペースとしての整備をあげている。

中野恒明著『水辺の賑わいをとりもどす－世界のウォーターフロントに見る水辺空間革命－』(花伝社・2018)は、空洞化した中心街をどうやって再生させるかを追求する。

ライン河畔プロムナードと世界最大規模の高水敷のオープンレストラン、アメリカ・ポートランド・ウィラメット川ウォーターフロント公園、デンマーク・コペンハーゲンのニューハウとハーバーフロントとハーバーフロント再生、スペイン・マラガ港のラ・ベルゴラ等の再生を通じ、水際の遊歩道の整備がそこを日常的に楽しむ市民の姿が見られるようになってくる。



渡辺豊博著『清流の街がよみがえった－地域力を結実・グランドワーク三島の挑戦－』(中央法規出版・2005)は、富士山麓の湧水で知られる三島市街を流れるドブ川と化した源兵衛川再生物語である。最後に、中村太士編『川の蛇行復元－水理・物質循環・生態系からの評価』(技報堂出版・2011)を挙げる。

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2018年12月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

- 巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」
(1/10-2/24 開催)



水の巡回展ネットワーク(JAWANET)企画製作の巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」の関東地方第二弾が、1/10(木)～2/24(日)まで北千葉導水ビジターセンターで開催されます。

- 開催場所：北千葉導水ビジターセンター ※入館無料
- 開催期間：平成31年1月10日(木)～2月24日(日)
- 開館時間：9時30分～16時00分
- 休館日：月曜日(祝日除く)、月曜日が祝日の時は翌火曜日

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3291.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

- 「図解 誰でもできる石積み入門」新刊書籍案内



(公社)土木学会の市民普請大賞2014で優秀賞を受賞された「石積み学校」の真田純子さん著作「図解 誰でもできる石積み入門」が発刊されました

- 書名：図解 誰でもできる石積み入門
- 著者：真田純子
- 発刊日：2018年12月19日
- ISBN：9784540171826
- 定価：¥2,700+税
- 発行：農山漁村文化協会

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3285.html>

【海外からの提供情報】

- 「ECRR (欧州河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

ECRR (欧州河川再生センター) の最新会報 (2018年12月号) が事務局より届きました。

本号では、ECRR 幹部会や情報発信意見交換会概要、ノルウェー河川再生セミナーやダム撤去セミナーの報告、ヨーロッパの河川連続性の障害地点を市民協働で地図上で共有する新サービス「AMBER」などが紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3288.html>



【海外からの提供情報】

- 「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2018年11月号) がRRC事務局より届きました。

本号では、来年開催予定のRRC総会参加申込受付開始や河川ハビタット調査研修の案内、また2019英国河川賞の募集や今年の河川功労賞受賞者による取り組み等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3282.html>



会議・イベント案内 (2019年1月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■第3回水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラム

○日時：2019年1月11日(金) 14:00~17:10

○主催：国土交通省

○場所：一橋大学 一橋講堂(東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2905.html>

■国際フォーラム 多様な生きものを守り、活かす観光

○日時：2019年1月25日(金) 13:00~17:30

○主催：(公財)日本生態系協会

○場所：四谷区民ホール(東京都新宿区)

<http://jp.a-rr.net/jp/>

■第1回小さな自然再生サミット 2019 神戸大会

○日時：2019年1月26日(土)~27日(日)

○主催：「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

○場所：神戸デザイン・クリエイティブセンター(兵庫県神戸市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/934.html>

■第十四回「外来魚情報交換会」

○日時：2019年1月26日(土)~27日(日)

○主催：琵琶湖を戻す会、全国ブラックバス防除市民ネットワーク

○場所：草津市立まちづくりセンター3階(滋賀県草津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2877.html>

■講習会 ~iRICで学ぶ 川の流れ(初級)~

○日時：2019年1月27日(日) 9:30~15:00

○主催：「小さな自然再生」研究会、JRRN

○場所：デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)3F 301会議室(兵庫県神戸市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2901.html>

■第12回淡海の川づくりフォーラム

○日時：2019年2月3日(日) 9:30~16:30

○主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会

○場所：滋賀県危機管理センター(滋賀県大津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2899.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介 (JRRN 会員著作の新刊案内) *Publications*

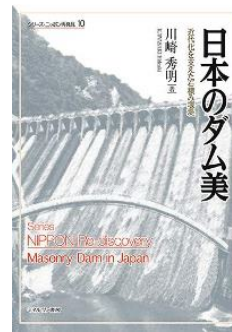
■「川に生きる 世界の河川事情 (2018.9)」



本書は中日新聞・東京新聞で3年間に渡り連載されたコラム「川に生きる」を書籍化したもので、多様な生物が生息する川と人との関係が描かれています。

- 書名：川に生きる 世界の河川事情
- 著者：新村安雄(JRRN 会員)
- 頁数：192
- 発刊日：2018年9月14日
- ISBN：4806207489, 978-4806207481
- 定価：¥1,300+税
- 出版社：中日新聞社

■日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤 (2018.10)



本書では、「石積みダム」の歴史・分類や背景、また石積み堰堤目録からダムの雑学まで、その魅力が存分に語り尽くされています。

- 書名：日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤
- 著者：川崎秀明(JRRN 会員)
- 頁数：320
- 発刊日：2018年10月
- ISBN：9784623083121
- 定価：¥2,200+税
- 出版社：ミネルヴァ書房

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

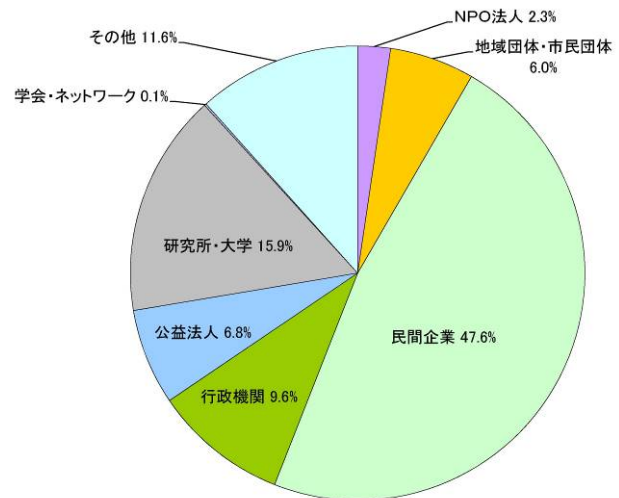
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2018年12月31日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：792名、団体会員数：60団体)

※12月の新規入会数：個人会員3、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARR活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

